

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902062		
法人名	株式会社グレース		
事業所名	グループホームあい		
所在地	旭川市川端町4条8丁目2番18号		
自己評価作成日	令和4年9月7日	評価結果市町村受理日	令和4年10月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JieyosyoCd=0192902062-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お互いの存在を喜びとし」から始まる理念は、ももとの運営母体であるキリスト教会の聖書に基づいた不朽不滅の理念であり、開所から20年経ちますが現在も代表は牧師であり、多くの教会関係者が運営に携わっております。代表からは「閉じ籠もらない介護、地域に根差した施設」を目指す！という指示のもと散歩や行事に力を入れておりますが、コロナ禍のため地域行事や外出行事も控えざるを得ない中でも、少しでも外気に触れる機会を作るようにしています。1日の流れも、入居者が閉じ籠もらないよう、1日2回のレクリエーションと体操等の運動、個別リハビリ等も行っています。行事や食事にも「季節感」を取り入れ、正月から始まりクリスマスや年越しに至るまで行事や行事食にも力を入れております。夏は流しそうめんや焼き鳥、冬は各種鍋やお好み焼きなどなど工夫を凝らしています。夏場はウッドデッキも出して、より外気に触れる機会を作っています。それでもピクニックや花見、毎日曜日の礼拝参加などができず極端に集団での外出の機会は減っています。その中でもグループ対応という事で3人くらいのグループでドライブ等も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路に程近い距離にありながら静かな住宅街に位置する開設21年目を迎える2ユニットの事業所です。趣のある温かい外観は周囲に溶け込み、理念や情報等を発信する掲示板も設置しています。運営法人はデイサービスセンターやグループハウス、企業主導型保育園や当事業所に有料老人ホームと共用型デイサービスを併設し地域福祉に貢献しています。年数が経過していますが建物内部は清掃が行き届き、窓辺にある幾多の観葉植物は潤いを醸し出し、全体的に解放感のある居心地の良い空間です。開設当初から地域に根ざし行われてきた豊かな相互交流は感染対策により中止や自粛となっていますが、利用者の心身の活性や維持に力を入れており、午前午後1日2回のレクリエーションや運動、個別メニューのリハビリ体操を提供し、積極的に戸外で過ごすことも大切にし日常の散歩や外気浴の他にグループでのドライブが再開されています。利用者の食べる楽しみを職員総出で盛り上げており、季節行事食や合同昼食会のバラエティ豊かなメニューは、利用者から「おかわりあるの」と嬉しい声が上がっています。拘縮気味の方へストレッチと関節の運動を取り入れた結果、座位が保持できるようになったり、寝たきり状態で話も難しかった方では好物を聞き取り食べていただく事により生活が取り戻されていくなど職員の支援力とケアマネジメントに優れています。利用者の希望の表出や自己決定を大切にし利用者と過ごしえ合う関係を築いている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの			○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念と、理念を具現化した介護の原則を毎日、朝礼で唱和、さらに年に最低1回は代表からの介護の原則について訓示が全体ミーティングで行われる。	理念は事業所建物前の掲示板やホームページ、パンフレット、ホール等の要所に掲げて広く発信しています。代表者による理念、介護の三原則の訓話や朝礼時にこれらを唱和して意識づけに努めています。内部研修等で日々のサービス提供場面を振り返り、確認しています。	事業所は理念の実践に向け、現状を丁寧に振り返っています。当理念の「お互いの存在を喜びとし…」の文言は職員相互にも当てはまるものであるため、職員間で理念が培われ新たな息吹となり、理念が事業所全体のものとなるよう期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴の都度地域の方とのあいさつに始まるコミュニケーションをとり、町内会行事もコロナ以前は参加できるものは参加していました。	町内会に加入し開設時より地域との関係性を大切に様々な相互交流やボランティアの受け入れなどが行われていましたが、新型コロナウイルス感染症対策により中止や自粛となっています。町内廃品回収の協力や散歩時に挨拶を交わすなどのおつきあいがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会、入居者家族、市役所など関係者にホームの状況や取り組み、各種情報を発信しており、そこでの意見も運営に活かせるようにしている。	運営推進会議は書面開催を交えつつ、近々では参集にて会議が行われ、家族の参加も増えています。状況報告のみに留まらないよう年間計画で主たる議題を決め、会議運営の推進に努めています。案内と議事録を家族全員に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護業務上の疑問などはいつも指導監査課などを通じ相談しており、運営推進会議にも長寿社会課の職員が参加している。	市の指導監査課とは電話や直接管理者が出向くなどして、介護保険制度や業務に係る案件の指導や助言を得ており、適正な運営の維持に協働して取り組んでいます。長寿社会課担当者が運営推進会議に出席し情報提供等の協力が得られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	株式会社グレース代表を含めた(身体拘束適正化委員会)を設置し、入居者の状況や状態を毎月確認し、(身体拘束しないケア)の実践に取り組んでいる。そして、現在は、安全ベルトやミトン、四方を囲むベッド柵等をしている入居者はいない。さらに器具を使わない「スピーチロック」等についても拘束として学んでいる。	身体的拘束等の適正化のための指針を定め、3ヶ月に1度代表者も出席し身体拘束適正化委員会を開催し確認が行われています。今年度のこれらに係る内部研修は4月と7月に実施しており、スピーチロックをテーマに職員一人ひとりが不安や混乱の要因を取り除くケアのあり方を掘り下げて検証し学んでいます。玄関の鍵は夜間帯のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修スケジュールに則り、高齢者虐待や高齢者の権利擁護について、研修しているが、外部研修にも参加できる時は職員にも参加してもらい、得た物をスタッフミーティングに下ろしてもらっている。8月の研修は高齢者の権利で成年後見制度。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに則り、成年後見制度や自立支援制度についても、研修しているが、外部研修にも参加できる時は職員にも参加してもらい、得た物をスタッフミーティングに下ろしてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には必ず代表が立会い、十分な説明と疑問点を尋ね家族の理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の帰りのミーティング時に入居者の苦情要望が無いが職員から聞き取りをしており、玄関にも苦情要望の意見箱を設置している。また、必要があればリーダー会議等で議題にしている。	業務日誌に利用者からの要望と苦情の欄を設け毎日のミーティングで確認する仕組みがあります。食事の要望ではメニューに反映したり、利用者間の不和による意見申し出等は双方への最良の支援のあり方を検討するなどきめ細かい対応です。	家族により知りたい事や気になることの違いがある事から、家族にどのような事を知りたいかの意向を確認することも、要望に叶った情報提供に資すると考えられます。家族アンケートを実施する意向ですので取り組みに期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティングでは、実務上の疑問やその他の質問を言う機会があり、毎日のミーティングでも気軽に言う機会もある。	代表者や専務は現場に訪れ話をする機会や会議に出席し情報を取り入れ課題等を把握し良質な運営の担保に努めています。管理者は職員からの相談等とその都度対応し意見等を聞いています。会議等では職員間で活発な意見が出されており、一緒に話し合い調整する風通しの良い環境です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、毎月のリーダー会議上でも、現在の運営状況にも言及し、職員の待遇改善にも努める向きの発言を行っている。実際グループの建物や土地の減価償却は年々済んでおり、今後の賃金改定に期待している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に職員を派遣してきたが、コロナ禍もあり、参加の機会は無いが、以前は研修に参加してもらい、全体ミーティングで研修の内容を皆に発表してもらっていた。現在は職員が調べた物を発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近所のGHの運営推進会議に管理者が参加、また、地域包括支援センターの勉強会や交流会に参加できる時は参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやサービス利用情報、家族やご本人からの聞き取り等を活かしながら、馴染みの物や関係も鑑みサービス提供を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントや以前からのサービス利用者情報、家族からの意見と本人の気持ち等を傾聴し馴染みの関係を大切にしながらの新しい安心できる関係づくりの構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問マッサージや訪問理容、訪問診療など介護保険外にも利用できるサービスを含めながら利用者や家族に最適な支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	代表からの訓示で「介護しているのではなく、させて貰っている」のだという気持ちで！と話されており、体の機能や認知機能など年齢と共に失っていくのは神様がそう作った事で決して悲しい事ではなくお互いを助け合う為のだと理念を共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	代表からの訓示で「介護しているのではなく、させて貰っている」のだという気持ちで！と話されており、体の機能や認知機能など年齢と共に失っていくのは神様がそう作った事で決して悲しい事ではなくお互いを助け合う為のだと理念を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院や美容院など家族の協力を得ながら利用されている方も居る。また、家族・親戚・友人知人の訪問も歓迎し、居室やホールでの楽しい面会の時間を持って頂いている。最近ではコロナで難しい面もあるが。	場所や時間の制限等の感染対策を講じ家族面会が再開されています。家族、知人との電話や年賀状のやり取りを支援し、家族から母の日の花や誕生日にケーキが届いた時にも職員は側に寄り添い利用者と家族の関係継続を暖かく支えています。選挙投票を希望する利用者の同行支援もなされており社会との関係性も維持しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで入居者同士が談笑したり、手作業を一緒にして頂いたり(手芸・編み物・針仕事・おやつ作りなど)している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養型医療施設に移った方のお見舞いや、家族や関係者から何らかの相談があった場合には対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活履歴や背景、家族や利用サービスからの情報と本人からの聞き取りにより、本人の希望・以降の把握に努めアセスメントしている。	職員は利用者との触れ合いや関わりを多くし、日々の言動や状態から本人の思いや意向の把握に努めています。率直に希望を伝える利用者もいます。入居時の情報や生活歴の参照のほか、家族からも情報を得て意向に沿う暮らし方を検討しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活履歴や背景、家族や利用サービスからの情報と本人からの聞き取りにより、本人の希望・以降の把握に努めアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の生活履歴や背景、家族や利用サービスからの情報と本人からの聞き取りにより、本人の希望・以降の把握に努めアセスメントしている。さらにADLの把握と経過観察によりリハビリ等による機能維持にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の体調変化や状態変化時、または介護保険の更新時期前に家族を含めた担当者会議を開き、意見を集約すると共に、日々の介護でのモニタリングと職員からの意見とアイデアも集めケアプランに活かしている。	毎日のアセスメントシート(個人記録)に援助目標を載せて実施状況を確認する仕組みがありモニタリングに生かしています。介護計画更新時は今後のより良いケアの抽出に向け、利用者家族はもとより職員一人ひとりが個別に文書で意見を提示する方法も設けて担当者会議に繋げ、関わる方々が参画し介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別アセスメントシートに記入し、短期目標のチェックもアセスメントに用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の担当医と相談しながら、足腰に痛みのある入居者には「訪問マッサージ」を受けてもらうなどサービスの向上につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内にある理容院と協力し、定期的に訪問理容のサービスを受けて貰っている。現在は、入居者家族の理容院に訪問理容をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。なお当事業所全員訪問診療を受けている。	利用契約時に事業所の医療支援体制を説明し、希望する医療機関での受診が可能です。協力医療機関による月2回の訪問診療や必要時の訪問歯科診療と月4回医療連携で訪問看護の体制も整えています。他科は時々家族の協力を得て外来受診を支援しています。投薬変更時や状態変化時は家族へ連絡しています。受診状況の報告のあり方が検討されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療医が契約した訪問看護事業所から、定期的に入居者の訪問看護サービスを受けており、入居者の健康管理の一翼を担っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対象者の日頃の様子やアセスメント、薬関係、認知の状態やADLなど情報提供をし、病院側からは看護計画などの情報提供を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時と状態悪化時には「重度化対応の指針」を説明し、希望者には「看取り」に関する説明をしている。さらに急変時の対応について予め家族の要望を文書で取って確認している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」「急変時・看取りケアについての事前確認書」を整備し、重要事項説明書にも「入居中医療行為が必要と認められた場合の当施設の方針」を明示し、利用契約時に説明し各々同意を得ています。主治医の判断により関係者間で話し合いを重ね、最後まで「その人らしく」を支える看取り支援に尽力しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを常備しており、また、ミーティング時にも災害発生時や救急対応時の講習を行っている。更に次年度には「普通救命講習」の職員受講も考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に地域の方も参加してくれ、災害時にも避難場所として自宅を使っても良いという話もいただいている。さらに今年は懸案だった垂直避難訓練も行ってみた。	令和4年1月に火災夜間想定、6月に日中想定で火災と水害想定避難訓練を実施しました。水害訓練ではエレベーター使用不可も想定し搬送器具を用いて2階への垂直避難を実際に行っています。近隣住民の参加は見送られていますが協力体制が築かれています。災害に備えた備蓄品を確保しています。	令和6年4月から義務化となる自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あいの理念を具体化した介護の三原則を朝礼時に日替わりで唱和すると共に、代表からの社内講習でも毎回言葉遣いについての訓示があり職員で共有している。	介護の三原則を毎日の目標の中に組み入れて接遇の意識づけを行っています。代表者も年に数回ほど言葉遣い等の訓示や講話を行い、表情と態度の重要性を伝えています。内部研修では介護のあり方について気になる点を出し合い確認する機会も設けています。個人記録類は他者の目に触れぬ場所で管理しています。	言葉の内容や語調が、利用者の尊厳に対して適切か否かを事業所全体で確認していますので、今後の研修の一例として、ロールプレイを用いNGワードのあるなしや言葉の置き換えなど、受ける側の体験を踏まえた学びの機会も有効であると考えられます。介護の三原則のゴールに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の着替えの好みを訊いたり、したい事、食べたい物など日常の会話から苦情要望として汲み取る仕組みがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	必要な支援として、体操やリハビリは極力して頂くが、レクに参加したくない人や団体行動が苦手な方などその人や気分に応じた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな化粧品を使って頂いたり、好みの服を着て頂くなど支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夏場の焼き鳥パーティー、合同昼食会、鍋パーティー、各種行事食など普段と違う食事などを楽しく頂けるよう対応している。特に行事食では入居者のADLを活かしたおやつ作りや、料理作りもして頂いている。	日々の献立は職員が立案し、月2回の合同昼食会を利用者の好みや要望を取り入れ多彩なメニューで提供しており人気のイベントです。敬老感謝祭の生寿司和食セットやお節料理、新春お茶会も雰囲気たっぷりに食卓を盛り上げています。利用者も可能なところで調理等の作業に携わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚などのたんぱく質や野菜類のビタミンと食物繊維など毎日の栄養摂取と1日1300mlを目安とした水分摂取に取り組んでおり、刻み食やミキサー食にも対応しており、食事量・水分量などの記録も個人個人取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや状態に応じた訪問歯科診療など支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとへの声掛け誘導やテーブル式オムツの方でも「トイレー！」と希望される時は職員2人掛かりでもトイレでの排泄支援を極力行っている。本人の状態変化に応じ紙パンツから綿下着などへの移行も行っている。	介護度の高い利用者が時折表出する尿意や便意も職員はキャッチトイレで気持ちよく排泄できるように支援しています。車椅子を自走するなど積極的にトイレに向かう姿もあります。食事前後などでの声かけや誘導、本人のタイミングも考慮しつつトイレでの排泄支援を基本としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類のビタミンと食物繊維など毎日の栄養摂取と1日1300mlを目安とした水分摂取にも取り組んでおり、個別リハビリや体操など便秘予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居者は最低週2回の入浴だが、体調や気分により日をずらしたり、季節の入浴剤を使い気分を変えたりとリラックスできる時間づくりを心掛けている。また、排泄の失敗などで汚れた場合も勿論入浴頂いている。	入浴の声かけから入浴後の着衣やドライヤーまで同じ職員が介助し1場面毎に職員の入れ替えもなく利用者の混乱防止や安心感に配慮した支援です。介助方法や入浴方法は個々の状況に沿って行い、柚子湯週間や蜜柑風呂も味わってもらっています。重度の方も職員2名介助で湯船に浸かっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムにより昼寝したい方には昼寝、昼寝の習慣がない方には、ホールのソファで他の入居者の方々と歓談などそれぞれの時間を過ごして頂き落ち着いたナイトタイムを迎えられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容に変化があった場合には必ず連絡事項として回覧周知している。また、新しく薬が増え症状の変化が出る事も予想される場合は経過観察もするよう回覧周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のADLに応じ、食後の茶碗拭き、タオルたたみ、テーブル拭きなどの家事手伝い、雑巾縫いや、編み物などの手作業、行事がある時や貰った山菜がある時など、下ごしらえやおやつ作りなどが出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は毎日の散歩や外気浴、ドライブ。冬季は外気浴に個別やグループ対応での外出にも出ているが、コロナ禍で以前のような「日曜礼拝」や「団体で買い物」などは自粛している。	天候の良い日は積極的に戸外に出かけています。馴染みの公園への散歩や使い慣れた歩行器を押して近隣の庭の花々を愛でに行く方もいます。季節感を味わうミニドライブではグループに分かれ桜や紅葉狩り、白鳥見学が再開されています。冬場も天候の良い日は職員と一緒に散歩に出かけたり雪はねをする利用者もいます。おやつや衣料品の買い物にも個別で出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の「おやつ」の買い物や必要時の衣料品の買い物など希望やADLに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話や年賀状など季節的な物や必要、希望時にやり支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には植物の緑や季節ごとのディスプレイをするようにし居心地よく過ごせる工夫をしている。	外玄関にゆるい傾斜のスロープを配置し、入り口にはベンチがあり出入り動作等に配慮しています。屋外の植栽や内部の観葉植物も美しく整えられています。ユニット毎に設えは違いますが、窓も大きく明るい造りで開放感があります。多目的に活用できるウッドデッキでは愛犬との触れ合いも可能です。季節毎に飾りつけを工夫し毎週土曜日に行われている習字の作品も掲示されています。各種機器類も使用して空調を管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂兼ホールには共同のテーブルとソファを設置しており、普段だけではなく来客時にも使用して頂いている。昼食後によく女性3から4人がお喋りを楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から馴染みの空間となるように、普段使っている家具や日用品をそのまま使って貰うようにしている。仏壇などを持ち込む方々もある。	居室入り口に職員手作りの表札があり自室と分かるようにしています。室内にはクローゼット、照明、ナースコールを備え、状況により介護用ベッドを提供しています。馴染みの家具や調度品、ぬいぐるみや写真、自作品類を飾りその人らしく安心して過ごせる居室環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要ならば手すりを増設したり、トイレやエレベーターなどの案内も分かり易くしている。		